

基本指針 1

# 住民主役のまちを作り出す “ひとづくり”

全国的に人口減少や少子高齢化が急速に進んでいる中で、まちの活力を維持し続けるためには、年齢や性別、障害の有無などを問わず、だれもが地域の中で支え合い活躍できるような環境を作ることが必要です。そして、人と人とがつながり合い、お互いに自分らしさを発揮することを応援し合うまちとして、住民が主人公のまちづくりを推進することで、まち全体に魅力と賑わいを作り出し、幸福度が高いまちとなることを目指します。

基本施策 1
<b>まちを好きと思ってもらえる移住・定住促進</b>
まちを好きになってもらうことで「住んでみたい」「住み続けたい」と思う人を増やし、人口の減少幅を最小限に抑える。そのために町の魅力向上とシティプロモーションを積極的に推進します。

施策	主要な取組み		
<b>若い人に「すんでもらう」移住促進</b>	<b>住んでみたい！と思わせる魅力の創出</b> 東西の魅力を融合し、豊能町らしさを活かした新しい「まちの魅力」を創出することで、子育て層の移住を促進する	<b>空き家リノベーションで若者のまちへ</b> 空き家のリノベーションを推奨し、「再生」ではなく「創生」を町の新しいイメージとして定着させることで、若者の移住を促進する	<b>住宅の流通促進で目指せ空家ゼロ</b> 地域と協した空家の掘り起こしや、未相続などの課題をかかえる物件の問題解決を支援し、流通の促進を図る
<b>みんなが「すみ続けたい」定住促進</b>	<b>公民連携による活気あるまちづくり</b> 住民サービスの向上や地域活性化に、大学や民間企業の情報力やエビデンスを活用し、連携によるまちづくりを進める	<b>魅力ある公園の利活用</b> 利用状況や管理状況のよくない公園を、みんなに愛される「生き生き感」のある公園に再整備し、住民の憩いの場づくりを進める	<b>「住んでよかった」と思う人を増やすまちづくり</b> 人がつながり合い、自分らしく生きる人が多い幸福度の高いまちを目指す
<b>まちのことを「すきになる」シティプロモーション</b>	<b>まちに真剣（マジ）になる人を増やすシティプロモーション</b> シティプロモーションプランの基本方針。熱量の高いファンを増やすことで、選ばれるまちになるための好循環を生み出す	<b>まちの資源や人を活かした、支え合い、助け合う地域イノベーションの創出</b> 一人ひとりの課題解決が繋がりが広がっていくことで、地域が活性化し、魅力的な人が増え、魅力的なまちになることを目指す	<b>トヨノルポーターによるまちの魅力発信</b> 転入のきっかけになりうるまちの魅力を住民目線で発信し続けるため、レポーターとトヨノPORTALの認知度向上に努める

基本施策 2
<b>まちの未来につながる教育の推進</b>
まちに住む人のためにある。どんな人に住んでほしいのか。“ひとづくり”は就学前から始まり大人になっても終わりはありません。地域とともにまちを作り上げていく。そんな人を育てています。

施策	主要な取組み		
<b>15歳までの一貫教育</b>	<b>保幼小中一貫教育の実践</b> 0歳から15歳まで、切れ目なく質の高い保育・教育を行う	<b>地域とともにある学校づくり</b> 地域が主体となって子どもたちの健全育成を進め、さらに成長した子どもたちが次世代を見守る、人のつながりの循環を生み出す	<b>スモールスクール構想。多様なニーズに応える自然の中の小さな学校</b> <sup>新</sup> 公立学校以外の選択肢として、オルタナティブスクールやフリースクールと呼ばれる学校を誘致し、多様な子どもが育ちあう環境をつくる
<b>みんなに生涯学習やスポーツを</b>	<b>生涯学習の充実</b> 住民の自発的な学習活動の推進に取り組む。高齢者のデジタル化促進を支援する	<b>スポーツの振興</b> スポーツ・レクリエーションのきっかけを提供し、地域スポーツの普及を図る	<b>「他者と繋がる力」のある青少年の育成</b> 世代を越えた多様な他者との交流と共同体験の機会を充実させる
<b>人権に向き合うひとづくり</b>	<b>人権教育・啓発の推進</b> 正しい認識と理解を深めるため、ライフスタイルに応じた学習の場を提供する	<b>他人のことを大切にできる平和なまちづくり</b> 他人をリスペクトし合える偏見や先入観のない人の住むまちを目指す	

基本施策 3
<b>安心して子どもが産める環境づくり</b>
若い人が移住してきても、子育てしにくい環境では定住してもらえない。安心して出産、育児、子育て、そして自分自身も充実した日々を送ってもらうためには、切れ目のない行政の支援が欠かせません。そのため環境を整えていきます。

施策	主要な取組み		
<b>子育てを通じたつながりづくり</b>	<b>妊娠から産後ケアまで一人ひとりに寄り添った助産院の開設</b> <sup>新</sup> 自然の中で落ち着いて出産できる場として助産院を誘致し、安心して出産できる地域に根差したサービスを提供する	<b>子育てしやすい環境の整備</b> 子育てへの不安解消や親同士の仲間づくりなどの機会を提供する	
<b>子育て家庭へのサポート</b>	<b>妊娠期からの切れ目ない子育て相談支援体制の充実</b> 子育て世代包括支援センターを中心に切れ目のない支援体制を整備する	<b>母子の健康と安全の確保</b> 母子保健コーディネーターを中心とした組織的な個別支援の充実を図る	<b>子どものための充実した保育と親のための多様なサービスの提供</b> 就労形態の多様化や保育ニーズの変化、多様な子どもたちに対応した保育サービスを提供する

基本施策 4
<b>いつでも生きがいがある健康寿命延伸</b>
「健康寿命」は高齢者だけに関係する話ではありません。すべての人に健康的な生活を送ってもらい、元気で長生きしてもらう。元気な人にはどんどん社会参加してもらう。いびつな人口構造の中でもまちに活力を生み出します。

施策	主要な取組み		
<b>町民の健康を守り、いつでも医療が受けられる暮らし</b>	<b>データ分析に基づく効果的な保健事業の推進</b> 特定検診や国保DBなどのデータを活用した個別相談支援を促進する	<b>高齢者50%時代に対応した地域包括ケアシステムの構築</b> 誰もが住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができる体制をつくる	<b>ポピュレーションアプローチで若者世代も健康を意識したセルフケア</b> 健康寿命の大切さを広く啓発し、若い世代の健康づくりを促進する
<b>みんながいまいきいきと暮らせる社会</b>	<b>みんなで理解し支え合う。地域で支援する福祉の促進</b> 自助・互助・共助・公助により、一人ひとりの自立を地域社会全体で支援する	<b>いつまでも歩み続けることができるまち</b> 医療や介護に依存しない、豊かな自然の中で生きがいを感じ、最後まで歩み続けることができる人を増やす	<b>だれもが笑顔で暮らせる障害者福祉の実践</b> 障害に対する正しい理解の啓発と、本人の可能性を大切にした伴走支援を小さなきっかけから継続する
	<b>元気な高齢者が活躍するまち</b> 元気な高齢者が多いのも本町の特徴。これからは元気な高齢者も支える側として70代半ばまでが支える世代のまちづくりを進める		

# 未来の活力を生み出す “しごとづくり”

どれだけ福祉や教育、インフラ整備などを充実させたとしても、働く場所がなければ人口の流出を止めることは難しく、産業基盤の形成が必要不可欠です。担い手不足が深刻化している農業への対策や、ポストコロナ・ウイズコロナの中での新しい働き方、また多様な人々が多様な働き方を実現できるダイバーシティ就労など、だれもが働きやすく、活気溢れるまちを目指します。

基本施策 1
<b>地域産業を元気にする6次産業化</b>
本町では唯一の産業といってもいい農業。高齢化による後継者問題を解決するため、豊産産にこだわった6次産業化と付加価値をつけるブランディングで、稼げる農業、魅力ある農業を目指します。

施策	主要な取組み		
トヨノ農林業を元気に	<b>農村のポテンシャルを引き出す「まちづくり農業法人」</b>	<b>農産物直売所で地産地消</b>	<b>農作物を守り命をいただく有害鳥獣の駆除と活用</b>
	個人から集団での営農に転換し、農地の保全管理を進めることで、農村地帯の魅力を引き出し、就農、観光、地域活性化につなげる	豊産町直売所「志野の里」の活性化に努め、町内の安全・安心な食物の流通拠点として発展させていく	獣害対策として狩猟した鹿や猪をシビエとして活用し、農作物を守りながら命の大切さを学ぶ食育に取り組み
とよのブランドで地域を元気に	<b>みんなが笑顔になる農福連携の推進</b>		
	農業の担い手不足と、障害者の働く場づくり。WinWinの関係でみんなが笑顔になる新しい農業の姿を作る		
とよのブランドで地域を元気に	<b>“とよのん×企業”で新しい町の特産品</b> <span style="float:right">新</span>	<b>地域と共創する高付加価値農産物の生産</b> <span style="float:right">新</span>	<b>まちの資源を活かした特産品の開発</b>
	「とよのん」をデザインに取り入れた商品（お菓子、水、農作物など）を開発し、とよのブランドとしてブランディングする	安心・安全・高品質といった高い付加価値のついた農産物を地域の生産者とともに開発し、地域産品として全国流通を目指す	町内にある産業・資源を活かした特産品を開発。目標は大きく、100年後の伝統工芸を目指した商品開発を支援する

基本施策 2
<b>まちで働く人を応援</b>
町内に働く場を。若者が起業にチャレンジしやすい環境づくりや、企業が参入しやすい規制緩和などを推し進め、まちの中で好きな仕事ができる。そんな、まちの再構築、地域アイデンティティを高めていく取り組みです。

施策	主要な取組み		
まちなか起業家を応援	<b>商店街（既存商業地）の再生</b> <span style="float:right">新</span>	<b>持続可能な地域社会をつくるローカルベンチャーの創出</b> <span style="float:right">新</span>	
	地域の魅力となる行列のできる店や、地産地消の拠点となる店舗などの出店を支援し、地域をブランディングすることで空き店舗をなくす	中間支援組織を立ち上げ、地域課題の解決と持続可能な地域社会づくりのために起業するベンチャー創出の好循環を生み出す	
賑わいをよぶ沿道整備	<b>沿道のポテンシャルを活かした地域経済の活性化</b>	<b>自然に溶け込んだスイーツカフェでおもてなし</b> <span style="float:right">新</span>	
	国道423号線の沿線に、立地や景観を活かした事業所誘致が可能となるような土地利用ルールを作り、まちの賑わいと経済循環を促進する	東地区の景観を活かした店舗づくりや商品開発を共創し、全国から人が訪れるまちの魅力を生み出す	

基本施策 3
<b>地域経済を循環させる</b>
府内最下位レベルの地域経済循環率を改善するため、域外消費を域内消費へ。地域新電力会社によるエネルギー販売、多様な働き方による個人所得の増加、お金を生み出す地域資源、観光ビジネスの開発など、お金がぐるぐる回るための仕組みづくりです。

施策	主要な取組み		
地域でお金が回る仕組みづくり	<b>豊産で作り、豊産で売る。地域循環型経済の推進</b> <span style="float:right">新</span>	<b>地域新電力で新しいまちづくり</b>	<b>地域通貨の導入</b> <span style="float:right">新</span>
	町民の持つスキルから生まれた商品を町内で販売する拠点をつくることで、域内での還流を生み出し、まちの魅力向上と経済循環を目指す	地域新電力会社とともに、町外に流出していたエネルギーを還流させ、収益の一部をまちづくりに投資できる環境を構築する	地域内の関わりにより得た対価を、地域の中で消費するのが地域通貨。経済の活性化と交流の促進を図る
地域にお金を呼び込む仕組みづくり	<b>お金を生む、人がつどえる体験型施設トヨノステーション</b> <span style="float:right">新</span>	<b>自然の中で見る・遊ぶ・食べる。ロケーションを活かしたスポットの創出</b> <span style="float:right">新</span>	
	自然を活かした体験型施設など、まちの財産である地域資源を使った拠点を設け町内雇用と交流人口による経済循環を作り出す	都会にはない「自然」を魅力に、妙見口駅前や高山地区、棚田などのロケーションを活かした体験型サービスを提供する	

基本施策 4
<b>人や仕事を呼び込むテレワークの推進</b>
アフターコロナ時代の新しい働き方は、郊外で自分のライフスタイルに合わせた仕事ができること。コワーキングスペースやシェアオフィスを整備し、仕事インフラの整った環境を提供することで、人や仕事を呼び込みます。

施策	主要な取組み		
新しい人と働き方の受け入れ	<b>テレワークしやすい環境の整備</b> <span style="float:right">新</span>	<b>ベンチャー企業のための稼げる集合施設</b> <span style="float:right">新</span>	<b>都会から仕事にくる自然に囲まれたコワーキングスペース</b> <span style="float:right">新</span>
	自然の近くで生活しながら仕事ができる「まちの魅力」と、落ち着いた街並で広く広い「住宅地の魅力」を活用しテレワークを推進する	再編により空いた学校や空き店舗などを、ベンチャーのスタートアップを支援できる集合施設として再整備を目指す	都会に住む人が憧れるような自然の中で仕事ができる環境を整備し、新しい関係人口を増やす
仕事づくりのための環境づくり	<b>多様な働き方の推進</b>	<b>外国人労働者の受け入れ促進</b> <span style="float:right">新</span>	
	パートタイム、高齢者雇用や障害者雇用など、ダイバーシティの考えに基づいた、だれもが働きやすい多様な環境づくりを推進する	介護人材不足の解消など、外国人労働者の重要性が増すことから、積極的な受け入れに向けた体制の構築を進める	

# 緑の中で楽しく暮らせる “まちづくり”

本町は豊かな自然が多く残っているまちであり、その景観は住民にとっての誇りです。しかし、少子高齢化や人口流出が続いている状況を踏まえると、10年後、あるいはもう少し先の未来に本町で快適な暮らしを送り続けるためには、環境に配慮しつつも暮らしを豊かにするための取り組みが求められています。AIやICT、IoTといった先端技術も活用しながら、子どもから高齢者まで、だれもが快適に楽しく暮らせる便利なまちを目指します。

**基本施策 1**

**人が活躍できる地域コミュニティづくり**

住民主役のまちにはコミュニティが欠かせません。自主活動、ボランティア、NPOなど様々なレベルのコミュニティ形成や、社会参加の促進など、個々人の所属欲求を満たすコミュニティの活性化を図ります。

施策	主要な取組み		
地域のつながりを活かしたコミュニティの活性化	<b>自立した地域コミュニティ活動がしやすい環境の整備</b>	<b>ボランティア・NPO活動の支援</b>	<b>自分たちのまちは自分たちで。協働共同協力のまちづくり</b> (新)
	地域イノベーションの流れを加速するための活動の場や、コミュニティ同士の助け合いが進むような機会の提供を図る	助け合い支え合う「互助」の精神が地域に溢れるまちを目指し、ボランティアやNPOの活動支援を推進する	
だれもが個性を発揮できる社会の実現	<b>だれもが町の人“財”。みんなが自分らしく活躍できるまち</b>	<b>福祉のまちづくり推進</b>	
	世代を超えて集える場所があり、自分らしさを見つけ、自分の得意なことと周りの人を幸せにすることができるまちを目指す	公共施設や住宅ストックのバリアフリー化など、高齢者や障害のある人が安心して住み続けられる住環境の整備に取り組む	

**基本施策 2**

**低炭素社会の実現による持続可能なまちづくり**

国の進めるカーボンニュートラルの取り組み。町レベルでできることは限られていますが、再生可能エネルギーの普及やCO2排出量削減につながる活動の推進、環境教育による意識改善など、地球に優しい持続可能なまちに変わります。

施策	主要な取組み		
未来に輝く里山タウン	<b>ごみの適正な処理と減量・資源化</b>	<b>ICTと自然が融合した低炭素なまちづくり</b> (新)	<b>再生可能エネルギーの普及とカーボンニュートラルの推進</b>
	ごみの減量化と、4Rの推進に向けた簡易包装、マイバック持参、容器回収などの取り組みが一層徹底されるよう啓発する	低炭素社会への理解を深め、自然と先端技術が融合した新しいまちづくりを進める	
豊かなみどり人と人が織りなすまち	<b>希少な動植物種の保全</b>	<b>自然とふれ合える場づくり</b> (新)	
	町内で発見された希少な動植物種を保護し、生息地域の環境保全と動植物多様性の促進に貢献する	貴重な地域資源である山林を日常的に親しめる空間として整備し、協働による保全活動を行いながら、体験型環境学習に取り組む	

**基本施策 3**

**交流人口の増加で新たな風土づくり**

2025年には関西大阪万博も開催。大阪を訪れる人を逃さない。交流人口を拡大するためには、来る人を受け入れる地域と、来た人を楽しんでもらう環境が必要です。新しい視点で交流人口の拡大を目指します。

施策	主要な取組み		
交流人口増加への取り組み	<b>情報発信と憩いの拠点づくり</b> (新)	<b>クラインガルデンでナチュラルライフ</b> (新)	
	来訪者への町の魅力やコンテンツを発信するための情報コーナーや、休憩・飲食等ができる機能を備えた拠点づくりに取り組む	自然と調和した民間主導によるクラインガルデン（滞在型市民農園）を整備し、地域との交流やコミュニティ形成を目指す	
魅力ある観光資源の発掘と活用	<b>とよの探訪～歴史が語る豊能の魅力～</b>	<b>とよの観光農園</b> (新)	<b>バイカー・サイクリストの聖地</b> (新)
	高山右近、石仏や寺社仏閣など、豊能の歴史を訪れることができるサイクリングやトレッキングのルートなどを開発する	農業に注目した新しい観光スポットとして、農業法人による観光農園（農産物の収穫体験ができる施設）誘致を目指す	
	<b>希少な動植物の活用</b> (新)		
	初谷川周辺の希少植物や蝶を観光資源として活用し、ハイキングルートの開発や生態の体験学習などをコンテンツ化する		

**基本施策 4**

**住民のQoL向上をめざしたコンパクトなまちづくり**

住みやすいまちに必要なインフラ整備、健全な行財政運営はもちろんのこと、まちづくりと一体となった公共交通の充実。さらには、新しい時代に挑戦するスマートシティへの取り組みなど、高い利便性と強靱性を兼ね備えたまちを創ります。

施策	主要な取組み		
安心・安全なまちの基盤整備	<b>防災・減災対策の推進（防災意識の普及・啓発）</b>	<b>良好な市街地景観を活かしたまちづくり</b>	<b>老朽化する社会インフラの適正な維持管理</b>
	地域防災力の強化や、森林の多面的機能の保全を図り、自然災害に対応できるまちづくりを計画的に推進する	自然景観と調和した特色ある市街地景観を大切に、住民主体の良好な住環境・まちなみ保全活動を推進する	
快適で住みやすい環境の整備	<b>“交通×福祉”で考える交通サービスの提供</b>	<b>ICT・IoT技術によるスマートシティの実現</b> (新)	
	高齢化が進む中、本町に最適な交通サービスを提供するため、福祉の視点を取り入れたまちづくりと一体的に検討する	住民の利便性と生活の質（QoL）の向上を目指し、最先端技術を活用したスマートシティへの取組を推進する	
持続可能な行財政運営の推進	<b>効率的・計画的な行財政経営の推進</b>	<b>職員の資質向上</b>	<b>自治体DXの推進</b>
	PDCAサイクルの確立や民間活力の活用を進め、効率的な行政運営を図るとともに、持続可能で健全な財政運営に努める	主体的に資質向上できる機会を拡充し、時代の変化に対応する能力や協働を実現できるコーディネーターなどを備えた人材を育成する	
			行政手続きのデジタル化やRPAなどの業務効率化に向けたICTの導入を進め、行政運営のデジタル化、効率化を図る